しかプロ 第４回公演（安城市民演劇祭参加作品）

　　　　　「とばないで！フライヤーズ」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　脚　　本　四方　香菜

　　　登 場 人 物

 劇団フライヤーズの座長。芝居に熱い思いは持っているが人付き合いが苦手で劇団運営は下手。

 劇団古参メンバー。飛川の唯一（？）の理解者。

 若手俳優。２年ほど前に入団するも本公演は今回が初めて。

つばめ 新人俳優。隼人の紹介で入ってきたばかり。

 劇団メンバーの近くにいつもいる男性。団員かどうかは不明。

音響 座付きの音響。うっかりやさん。

やめていった団員たち

　劇的な音楽

　幕が開くと、そこには４人の戦士たちの姿。

　勇者・魔法使い・僧侶・踊り子……のようだが、魔法使い以外は衣装が適当で、ジャージに布を巻いただけのように見える。

勇者（隼人） いくぞっ！ファイナルアルティメットソード！

踊り子（深山） ライトニングステップ！

魔法使い（つばめ）アースウインドアンドファイア！

僧侶（亘） ……ホイミ！

　それぞれになんかそれっぽい効果音。

　しかし跳ね返されてダメージを負う４人（亘だけは周りの様子を見てから少し遅れて反応する）

４人 わああああっ！

　倒れ込む４人

踊り子 さすが魔王……

魔法使い 勝てっこないよ、こんなの……

　勇者、立ち上がる

踊り子 だめよ！ここは一旦退いて様子を見ましょう

魔法使い そうだよ！こんな相手、レベチじゃん！

僧侶 ……む、無理は良くない……

勇者 だめだ！こんなところで引き下がれるか！

魔法使い でも……

勇者 ここで退いたら……顔向けできないじゃないか！死んでった仲間たちに！

僧侶 ……（だめだこりゃという顔）

　勇者、空を見上げて

勇者 俺たちは今、共に旅をしてきたすべての仲間たちと一緒に魔王の前に立っているんだ！志なかばで散っていったみんなの意思を、熱い魂を、俺たちの手でぶつけなくちゃいけないんだ！はあああああっ！！

　魔王に斬りかかる勇者

　なんか変な効果音がして、一瞬「え？」という顔になるが、なんとか持ち直しこう着状態に。

勇者 う、うおおおおおお

勇者の姿を見て、力を貸す女子二人

入る隙間がなくてポジションどりを頑張ろうとしている僧侶

勇者 お、お前たち……！

踊り子 一人ずつの力では足りないかもしれないけど

魔法使い 全員で力をあわせれば……！

勇者 いくぞ！

３人 うおおおおおおおおおお！！！（魔法使いだけは明らかに棒読み）

飛川 はい止めます。

　演出席の飛川が手を打ち鳴らし、シーンを止める。

隼人 どうでしたか！？俺の熱演？（剣を振って）はぁっ！はぁっ！やぁっ！

深山 はい隼人くん調子乗らない。演出の話聞く。

隼人 今回いけたと思うんすよね。長ゼリも決まってたし、技名もそこそこいい感じに

飛川 うるさい。

隼人 え？

飛川 うるさいっつってんだよ。お前はいつもいつも俺の話も聞かずにシーン終わった途端にぺちゃくちゃぺちゃくちゃと。

深山がやめろっつったのも聞こえなかったのか？

隼人 ちょっとうまくいってテンション上がっただけじゃないっすか……

飛川 うまくもいってねえから。あのさ、俺何回も言っただろ？５７ページ６行目「だめだ！」は前のセリフを食っていけって。

 この下手くそが。

隼人 それは……

つばめ 私のセリフの「レベチ」がおかしくて笑い堪えてるんじゃないですか？

隼人 そうそう、あそこちょっとさー

飛川 自分でおかしいと思ってんなら言い方変えろ。

つばめ いや言い方じゃなくてセリフ自体が……

飛川 つばめ、お前、なんだ。……やる気あんのか？

つばめ え。ありますけど。

飛川 こもってないんだよ。特に「はあっ」とか「やあっ」とか。全部棒。

つばめ それは……

飛川 あと音響。

音響 は、はい。

飛川 なんであそこでミスるかな！一番大事なとこだろうが。え？なにさっきの♪〜〜（サンプラーを横から押す）こんな音使わねえだろ

音響 別現場のが混ざっちゃってて……

飛川 はあ？言い訳になるかそんなもん！別現場の音なんて消せ！消してもってこい！オールデリート！

深山 いやそこまでしなくても

音響 う、ううううあああ……（子供みたいに泣く）

飛川 なんだよ！いい年してみっともない！

深山 はいはい、大丈夫、落ち着いて、落ち着いて。

飛川 ほっとけ。ダメ出し続けんぞ。えーと……あーもう何から手つけていいかわかんねぇな……お前らわかってるか？演劇祭まであと１週間……

飛川が台本から目を上げて舞台上を見るとつばめが顔を伏せている

飛川 はあもう、なんだよ、お前まで泣いてんのか。

つばめ 泣いてないです……

飛川 泣いてんじゃねぇか

つばめ 泣いてない！キレてんの！！

　一同びっくり

つばめ なんなの！？私たちだって頑張ってるじゃん！自分ばっかり頑張ってるみたいな顔してさ。偉そーに

飛川 偉そーったって、俺主宰……

つばめ だからって言っていいことと悪いことがあるんじゃないですか？あまりにもひどい言い草だと思うんですけど！

飛川 べ、別に、俺はダメ出ししてるだけで……

つばめ 言葉選べって言ってるんですよ！暴言ですよ！？やる気ないとか。大根役者とか。役立たずとか親のすねかじりとか！

飛川 誰もそこまで言ってないよ？

つばめ 私！こんな劇団無理です！やめます！！

　つばめ、走って出ていく

隼人 あ、ちょっとつばめちゃん！

飛川 ほっとけ！新人！

隼人 飛川さん！これだけは言わせてもらいますけど！

飛川 な、なんだよ！

隼人 「アースウインドアンドファイア」は技名じゃなくてバンドの名前です！

　走って追いかける隼人

飛川 隼人！おい！！……くそっ…………。バレてたか。

深山 いやバレてたかじゃないですよ。

飛川 世代的に知らないかなと思ったんだけどな

深山 今そこ問題じゃないでしょ。どうするんですかこれ。

飛川 なー。どうすんだろなー。

深山 他人事か！ただでさえ団員少ないのに……わかってます？つばめちゃんメインヒロインなんですよ！？

飛川 いいよ！俺がやるよ！ヒロイン。

深山 いやーーーー！！（この世の終わりみたいに叫ぶ）

飛川 そんなに！？

深山 もう！現実逃避してないでちゃんと考えてください！！

飛川 だってー！俺だってもうどうしたらいいかわかんねぇんだよ。甘やかしたら舐められるし、変な嘘つかれるし、無関心ぽくしてたらそれはそれで何故かキレられるし。じゃあ厳しくしてみるか？って試したらこれだろ？

深山 そんな恋の駆け引きみたいな。

飛川 恋の方がよっぽど簡単だよ。一対一だもん。俺には無理だよ。一人で劇団仕切るなんて……

深山 また始まった。そんな一度や二度の失敗で投げやりにならないでくださいよ。

飛川 一度や二度じゃないじゃん！だって！これで何回目だよ！本番直前に劇団員がやめるの……

　回想。やめていった劇団員たちが舞台上に出てくる

団員１ 自分にはこの劇団ぬるすぎるんで、やめていっすか？

団員２ もしもし……今、急な体調不良で緊急搬送されてるんで本番出られません。

団員３ あなたとなんてもうやってられない！

団員４ 見えちゃうんです……飛川さんの後ろに……青白い顔をした……ああっ！！（顔を手で覆う）というわけで。

団員たち さよならーっ！！

　走り去る団員たち

飛川 はぁ……

深山 まあ今まで人の引きが悪かったっていうのもあると思いますよ。

飛川 ちがうよ……俺にはむいてないんだよー……戻ってきてくれよー……

深山 そんなこと言ってたって仕方ないでしょ？とにかく追いかけたらどうです？隼人くんだけに任せてる場合じゃないでしょ

飛川 いいだろ、あいつら元々大学の先輩後輩なんだし。

深山 かわいい後輩紹介してくれた隼人くん裏切るんですか？

飛川 裏切ってんのはあっちだろう！衣装もできる可愛い女の子がいるんでとか言って、あいつ自分の分の衣装だけ頑張って、他のめちゃくちゃじゃないか。

深山 まだ途中だって言ってましたよ。

飛川 後１週間だぞ！？こんなん仕上がらないって……

深山 まあつばめちゃん辞めちゃったらそもそもこのままの衣装ででるしかないですけどね。

飛川 ……深山ぁ……

深山 だから！さっさと追っかけて、ですね！

飛川 でもあんまりしつこくしてもさ、最近怖いじゃん！若い奴らめっちゃ訴えるじゃん。パワハラだセクハラだって。俺やだよそんなことで有名人になんの……

深山 じゃあ私がいってきますよ！

　立ち上がる深山と亘

飛川 いいよ！いいよ！！ちょっと待って。もうちょっとなんか……なんか考えるから……ちょっと今もうぐちゃぐちゃなんだって俺も……

深山 ……あーもう！！

　深山はその場に座り、亘は迷った末、「仕方がないか」と様子を見にでて行く

深山 ……とりあえず音チェックだけ済ませよう。酒場のシーンの音ちょうだい。

音響 はい……

　カランカランと酒場のドアが開く音とB G M

　それはホール近くの喫茶店の音とリンクする。

　喫茶店に駆け込み、一人席に座って顔を伏せているつばめのところに隼人と亘がやってくる。

隼人 つばめちゃん、ここいい？

つばめ ……。

隼人 座るよ？

　隼人と亘、それぞれ席に着く。

隼人 ……大丈夫？

つばめ 大丈夫……じゃないですよ。ひどいですよ。先輩のこと大根だの何だのって……

隼人 ……あ、あれ、え、俺！？言われたっけ……

つばめ ていうか先輩、いつまでそんな布切れつけてるんですか？芝居中じゃあるまいし。

隼人 布切れって……マントでしょ、一応

つばめ まだなんも縫ってないんだから、ただの布切れですよ。

隼人 きみ、本番１週間前の衣装担当だよね……？

つばめ なにか！？

隼人 いえ……何も……

　なんだか空気の悪いまま黙り込む二人。

つばめ フラッペーノ

隼人 え？

つばめ 限定のフラッペーノ。飲みたいです。

隼人 あ、はい。

　隼人、立ち上がる

つばめ 一番大きいサイズで！

隼人 ……はいはい。

隼人、注文しに行く。

　残されたつばめと亘、何も会話しない。

　つばめはスマホを取り出し、なにやらかきこもうとしている

つばめ ムカつく。なんて書こうかな……あぁいうのってなんていうんだろ。パワハラ？

　亘、「いけないよ」というように慌てて首を横に振る

つばめ こういうのピンスタに書き込めばいいの？プイッターの方がバズるかな……

　亘、どうやってとめようかおろおろした末に、立ち上がって自分の座っていた椅子を倒す。

つばめ きゃっ！え、ちょっと、なに！？

亘 いや、その……それは君のためにもならないよ……

　つばめ、訝しげに亘の方を見ながら椅子を起こす。

亘 あ、ああ……ごめんね。

　亘、椅子に座り直す。

そこに隼人が帰ってくる。手に持ったトレイの上には二人分の飲み物。

“一番大きなフラッペーノ“が本当に大きすぎて、ヨタヨタしながら歩いてくる。

隼人 ねえだいぶ大きいけどこれでだいじょう……

　まだ歩いている途中の隼人の元にツカツカと歩み寄り、トレイからフラッペーノをととってすごい勢いでストローをすうつばめ

隼人 あ、合ってた。

つばめ プハー。

隼人 落ち着いた？

つばめ 落ち着きはしないですけど、機嫌はちょっと治りました。

隼人 よ、よかった。とりあえず座ろうか。

　席に戻りつつフラッペーノをすすり続けるつばめ

つばめ すごい、本当にプリンアラモードみたい。

亘 えっ！（フラッペーノを食い入るように見つめる）

隼人 なんかすごい人気らしいね。

つばめ ５年ぶりの復刻フラッペらしいですよ。

亘 やっぱそうだよねぇ！？（すごく羨ましそうにフラッペーノをみる）

つばめ 飲みます？

隼人 え？

亘 いいの！？

隼人 でもそれだと間接キスに……

つばめ 冗談ですよ。

隼人・亘 ですよねー

　またフラッペーノを飲み始めるつばめ

隼人 ……ほんとにやめちゃうの？

つばめ そう言ったじゃないですか。

隼人 もうちょっと考えてみてもいいんじゃない？

つばめ 別に私一人いなくなったって大丈夫でしょ。

隼人 そんなこと……

つばめ 私以外にもいたんですよね？本番前にやめた人。

隼人 噂でしか知らないけどね。俺の入る前のことらしいから。

つばめ そりゃやめますよ。あんな意地悪座長がいたら。

隼人 入った時は優しい良い人と思ってたんだけどね……。

つばめ 先輩ってほんとうつけ者ですよね。

隼人 つばめちゃん、そういう言葉のバリエーション豊富よね。

つばめ 私も最初は人当たり良さそうだなって思いましたよ。でも稽古始まったらどんどんキツくなってきたじゃないですか。

隼人 演出だもん、多少厳しいことも言ったりはするって。

つばめ 厳しい？もうハラスメントですよあんなの。

隼人 そんなつもりで言ってるんじゃないと思うよ。飛川さん、根は優しい人だから。

つばめ 根が優しい人はあんな意地悪ばっか言いません。

隼人 あれだよ、今回はちょっと調子悪いんだって。本番も直前だし。

つばめ それ言い訳になります？

隼人 焦ってるんだよ。あの人が一番。時間ない時ってイライラして周りが見えなくなることあるじゃん。座長も人間だか

ら。そう、生きてる人間だから！

つばめ そんなん、なんでも許さないといけないじゃないですか。

隼人 いろいろあるんだよ。生きてる人間だから。

つばめ なんですかそれ

隼人 それ？

つばめ 「生きてる人間だから」って。

隼人 あぁ、そういうセリフがあったんだよ。

つばめ 芝居のですか？

隼人 そうそう。練習用につかった台本だったんだけどね。なんか異様に心に刺さってさ。いつのだったかな。あれは確か

深山 もう５年ですよ！

舞台、戻る。

深山 ５年もやってたらもう立派にベテランでしょう。

飛川 っていってもさあ。俺、２代目だもん。

深山 アマチュア劇団の座長に初代も２代目もないでしょう。

飛川 でも……あいつが座長の時はうまくいってたじゃん……

深山 はい、うにゃうにゃ言わない！とにかく今どうするか！かんがえますよ！！

飛川 っていってもさあ……

　二人、しばし、黙り込んで考える

　飛川、パラパラと脚本をめくってからぱたんと閉じて

飛川 決めた。

深山 何か思いつきました？

飛川 うん、これしかない。……今日から君がヒロインだ！（音響を指差し）

音響 （思わず立ち上がる）はい！……いや、私音響……

飛川 音響兼、ヒロインだ！

音響 む、無理ですよ！

飛川 無理じゃない！

音響 無理ですよ！私（演出マイクを持って）「勇者君になら運命、預けられるかも……なんちゃって」なんてセリフ恥ずかしすぎて言えません！！

飛川 わ、お、お前、それ改稿前のボツセリフだろうが！掘り返すな！

深山 改稿前？

飛川 そうだよ！スタッフにだけ渡してたの！酒飲んだ後のテンションで書いたけど「ないわ」って思っ……

深山 それだ。

飛川 へ？

深山 それですよ、飛川さん！

飛川 ……え！？このセリフ生き！？

深山 違いますよ！改稿しましょう！台本！

飛川 はああ！？

深山 ばつーん！と！ね？つばめちゃん、台本に不満がありそうだったし……直せば「君の意見をきいたよ」って姿勢を見せることにもつながるじゃないですか？

飛川 そんな問題か？

深山 そもそも私もこのままでは良くないと思うので手直ししましょう！

飛川 えええ、今更そんなこと言うなよー。傷つくわー。

深山 そう思ってみんな言わなかったんです！ とはいえやっぱり言わずにはいられないレベルでこれはひどい！

飛川 ひどい！

深山 まず飛川さん、ずばりききますけど……ゲームしたことないでしょ？

飛川 そんなことないよ！やってるよ人並みには！

深山 なんのゲームですか？
飛川 え……ほら「はじけろ！けだものの森」とか「THE　農園」とか。

深山 けだもり！？あの、ちっさいキャラクターたちとほのぼの暮らす？

飛川 そうだよ。

深山 かわいっ！

飛川 いいだろ別に！おっさんが「けだもり」やっても！

深山 ていうかなんですか「THE　農園」って。

飛川 農園を経営するんだよ。楽しいぞー。牛育てたり、作物育てたり……

　深山、面白くなさそうーという顔

飛川 リゾート開発したい業者とのバトルとかもあって、負けたら取られるの。

深山 楽しいんですかそれ？ていうか、ほら、全然RPGじゃないじゃないですか。

飛川 RPGもやってるよ

深山 なんですか？

飛川 星のパーリィとか

深山 それRPGじゃない！アクションゲームっていうんです！

飛川 詳しいな。

深山 常識です。ほら知らないんでしょ？いわゆるドラポンクエストとか、ファイナルファンシーとか。

飛川 知ってはいるけど……

深山 やったことはない。

飛川 苦手なんだよ、あぁいうコマンド選択系。

深山 だったらもう少し書くときに周りを頼りましょうよ。

飛川 なに？具体的にどこがおかしいの。

深山 まずは技名

飛川 アースウインドアンドファイアか

深山 それもですけど。勇者が魔王に最初に使うのが「ファイナルアルティメットソード」って。「ファイナル」って！「アルテ

ィメット」って！

飛川 別におかしくないだろ。

深山 一発目でそれ出してどうするんですか。たおせなかったらもうダメでしょう。

飛川 あ、そうか。

深山 それに勇者はこんな初手でそんな技つかわないんですよ。使うなら本当に最後。ラストのラスト。

飛川 うーん……

深山 ほんとに……飛川さん、勇者のあり方をまるでわかってない！

飛川 勇者のあり方？

深山 たとえば３３ページ！メインヒロインの魔法使いが怪我をおって「私は大丈夫……ヒーリング魔法でなんとかするからあなたは先に行って！」って健気に言うでしょ？その後、勇者、なんて言います？

飛川 「わかった！」

深山 いや「わかった」じゃないわ。

飛川 え。だめなの

深山 手負いの女の子モンスターの前に置いてく勇者がどこにいるの？

飛川 だって自分で回復できるならそうしてもらった方が合理的じゃない？

深山 はい次４２ページ。新しい魔法を覚えた魔法使いのセリフ。「ここまでレベルをあげて覚える魔法がただ花を咲かせるだけ

の魔法だったなんて。忘れた方がいいわよね。こんな攻撃にも回復にもならない魔法。」

飛川 「覚えておいてもいいんじゃないか。」

深山 「えっ？」

飛川 「いざという時、食べられるかもしれない」

深山 はい、なし。

飛川 画期的な活用法だろ？

深山 せっかく「なんか素敵な感じの魔法」覚えたんですよ！ときめきチャンスでしょうに！

飛川 ときめきチャンス？

深山 こう言うのを「心を豊かにしてくれる素晴らしい魔法」とかなんとかって認めるのが人格者ってもんじゃないんですか？

飛川 おお、それいいな。採用。

深山 んでヒロインもヒロインで何！？「確かにっ！」……確かに！？バカなの？

飛川 じゃあどうしろっていうんだよ。

深山 とにかく……

つばめ とにかく、あんな脚本じゃ私、演技しようにもできません。

隼人 え、じゃあ本変わったらまた戻ってもいいってこと？

つばめ そ……そうとはかぎりませんけど！でもそういう意見を聞いてくれるなら少しは考える余地あるかもって……

隼人 まじで！？

つばめ いや！それだけじゃなんとも言えませんけどね！例えば！例えばの話としてですよ？

隼人 ……とはいってもなあ……この段階で本変えるなんて選択、飛川さんは絶対しないだろうし……

つばめ ほらね！

隼人 いや、しないっていうか無理だと思う。

つばめ 無理？

隼人 覚えてるでしょ。飛川さんの筆の遅さ。

つばめ そうだ！それも腹立ってきた！脚本仕上がったのこの間じゃないですか！稽古開始３ヶ月前ですよ！？２ヶ月半、話の

オチも分からず宙ぶらりんにされて……人に偉そうに言う割に全然やる気なくないですか！？

隼人 やる気がないわけじゃなくて、ただ慣れてないんだよ。

つばめ どういうことですか？

隼人 俺が入団したの２年前でしょ？で、今回が初めての本格的な公演なんだけど。それまでも一応小さい公演？っていうか

身内向けの発表会みたいなのはやってたじゃん？

つばめ あぁ、あのなんか隼人先輩と深山さんの２人劇？

隼人 そうそう。

つばめ あれは面白かったですよ。演技はぼちぼちでしたけど、台本はよかったです。

隼人 はっきり言うね……まあ……そりゃそうだよ。あれ最近戯曲賞とった新人作家の作品だもん。

つばめ そうなんですか？

隼人 うん。あの公演も含めて練習に使った台本も全部既成で、オリジナルのはなかったんだよね。確か。

つばめ え？じゃあ書くの今回が初めてってことですか？

隼人 なんじゃないかな？俺の知りうる限りでは。

つばめ でも座長、フライヤーズは旗揚げからずっと本公演はオリジナル作品って言ってませんでした？

隼人 うん。だから作家がいたはずなんだよ。

つばめ その人も飛んじゃったってことですか？

隼人 詳しくはわかんないんだけど……

　隼人が頭をかきながら目を背けた先には亘。

　亘、そっと目を伏せる。

隼人 （軽くため息をつき）誰も教えてくれないから。あ、でも名前だけはわかるよ。

つばめ なんて人ですか？

隼人 えーと……ちょっと待ってよ。（スマホを触って）劇団サイトの……

つばめ うちの劇団、サイトなんてありましたっけ？

隼人 もう何年も更新されてないけどね。あ、あった。過去公演情報。えーと……なんとか・フライヤー。

つばめ なんとか？

隼人 漢字が難しいんだよ。これ。読める？

　スマホをつばめに渡す

　つばめ、スマホをいじりながら

つばめ えー。なにこの字。

隼人 つばめちゃんでも読めないか……ああ、でもそうか。それでフライヤーズ。

つばめ フライヤーさんと、その仲間たちってことですか。

隼人 なんだろうね。

つばめ にしたってあんまり良くない名前ですよね「劇団フライヤーズ」って……

隼人 そう？

つばめ フライ……「飛ぶ」なんて芝居するのに全然いい意味なくないですか？セリフが飛ぶとか、段取り飛ばすとか

隼人 そ、そんなことないよ。幕を飛ばすとか！あ、拍手が飛ぶとか！

つばめ 人が飛ぶ、とかね。

隼人 う……

つばめ あ、ありましたよ。この字。東？に鳥とかいて

飛川 ツグミだよ。

　舞台、ホールに戻る

飛川 そうだ思い出した！そんなこと言うのお前以外あいつしかいないわ。……もうお前が書けば？

深山 嫌です。１から書くなんて無理無理。

飛川 俺だって無理だよー

深山 書いてきたじゃないですか。何本も。

飛川 あれはツグミ大先生が「モッズも書いてよ！」ってうるさいから……

深山 楽しそうに書いてるように見えましたけど？

飛川 書いてる時はな？筆がのってきたら「俺天才かもしれん」とか思ったりしてさ。でも書き上げたものを見せるとあいつ

いっつも言うんだよ。

飛川・深山 「この本には人間がいない」

飛川 なんで？いるじゃん。むしろ人間しか出てこないよ？俺の本。犬とかお化けとか妖怪とか、出したことないじゃん？

深山 ええ？そっからですか？

飛川 なんだよ

深山 あのね飛川さん。そういうことじゃなくて。人間としての、こう、整合性がないって意味ですよ。

飛川 せいご……え。え、ちょっとほんとにわかんない。

深山 だから！登場人物がみんな本のためのコマにしかなってないんです。ストーリーの進行のためにセリフをいって、進行のために動いてるってことです。だから人間味もないし、キャラクターに芯も厚みもない。生きてる人間に見えないって言ってるんです！

飛川 所詮架空の人間なんだから。そこに人間味もなにも

深山 はい！飛川君に問題です！

飛川 え、なにいきなり

深山 まずはこちらのシーンをご覧ください。

　喫茶店側の３人。

　トレンディドラマぽく演じる

　サラリーマンの夏川ナツオ（隼人）はアキヤマ（亘）に説教されている

アキヤマ どうしてくれるんだ夏川！取引先、カンカンだぞ！

ナツオ すいません！最近、残業続きで睡眠不足で……

アキヤマ 言い訳するな！残業が！多いのは！お前の働きが！悪いからだろうが！！

深山 そこにナツオの彼女・ハルコから電話がかかってきます。

ナツオ あ、ハルコ……ちょっとすいません。

アキヤマ はあ？お前、この状況……

ナツオ （電話に）どうした？

ハルコ（つばめ） ナツオ、昨日なんの日だったか覚えてる？

ナツオ え、えーと……昨日は２月の……

ハルコ ２月２日。私たちが付き合って５回目の記念日！

ナツオ あ……そうだ。ごめん、昨日は俺……

ハルコ また残業？去年のクリスマスもそうだったよね。映画の約束の日もそうだった！今まで「仕事なら仕方ないよね」って

ドタキャンも笑って許してきたよ？でもさ、この日だけは空けといてって随分前にお願いしてたじゃない！

ナツオ ご、ごめん……でも俺……

　空港の呼び出し音

ナツオ ハルコ？今どこにいるんだ？

ハルコ 空港。

ナツオ なんでまた

ハルコ 私、留学することに決めたの。

ナツオ りゅ、留学！？

ハルコ 前からパティシエになりたかった！フランスに行きたいの！……これ以上あなたのために我慢できない！さよなら！

　電話、切れる。

ナツオ ハルコ？おい、ハルコ！……そんな、フランスなんて……

　アキヤマ、ナツオの肩をポンと叩く

ナツオ アキヤマ部長。

アキヤマ 中央国際空港発、フランス行きの次のフライトは２時間後。今からタクシー飛ばせばなんとか間に合う。

ナツオ え？

アキヤマ 仕事は！その彼女より大事なものなのか？

ナツオ ……はい。

アキヤマ この馬鹿野郎！

ナツオを殴るアキヤマ

ナツオ いたいっ。

アキヤマ お前はいつもそうだ！目先のことに囚われて、一番大切にすべきことを見逃してばかりいるからうまくいかないんだよ、仕事も！……恋愛も！

ナツオ 部長……俺、間違ってました。

アキヤマ 早くいけ。これ以上、なにも逃すんじゃねえ！

ナツオ ありがとうございます！！

　走り去るナツオを見送り

アキヤマ なんだよあいつ。俺の若い頃にそっくりじゃねえか。

深山 ここでクエスチョン。

　深山の合図で音響「デデン！」と出題の音を鳴らす。

　喫茶店の３人、元の位置に集まってきて、並んで話を聞いている。

深山 今のを見て、どう感じましたか？

飛川 どう……そりゃあ……部長、いい人だなって。

深山 あんたはサイコパスか！！

飛川 な、なんでだよぉ

深山 じゃあ質問変えます。今のに対するツッコミどころはどこ！？

飛川 ツッコミ？？……あ。一晩でフランス留学の準備をするのは不可能！

深山 それもそうだけど！もっと！それ以前にあるでしょ！山ほど！ナツオ！あのタイミングで彼女からの電話とるな！ハルコ、夢の話唐突すぎ！部長！前半と後半でキャラ変わりすぎ！！何より飛川さん！

飛川 俺！？

深山 こんなメチャクチャな話を食い入るように見るな！それなりに感動するな！

飛川 でもよくあるじゃんこういうドラマ

深山 飛川さん、さめないんですか？こういうの。

飛川 深山はさめるの？

深山 さめます！超さめます。小１時間無気力になるくらいさめます！

飛川 そこまで！？

深山 そりゃね、こう言うのが好きな人も一定数はいるんだろうし、書いてる人もある程度狙ってるんだと思います。でも、表現する側の人間がこれを納得して見てちゃいけないと思うんですよ、私は。

飛川 そうか？俺はご都合主義も嫌いじゃないよ？

深山 程度ってもんがありますよ？ここまでいくと見てる人だって気持ち悪いし、違和感おぼえながら演じるなんて、役者にとっちゃとんでもないストレスですよ。

　喫茶店チーム、うんうんとうなずく。

　（その後、やれやれと言った感じで元の席に戻る。）

深山 現に今回は役者から演じにくいって意見が出てるわけですから！キャラがブレてるところだけでも修正していきましょうよ。

飛川 って言ってもなあ……もう根本的な話じゃんそれって。

深山 簡単ですよ。人間を書けばいいんです。飛川さんだって前はできてたじゃないですか。

飛川 前って？

深山 ほら、あれとか。練習の時に一回使った……

飛川 あれはだめ。人の前に出すような仕上がりじゃない。

深山 私は結構好きでしたよ？あれだけじゃなくて、前の飛川さんの作風、全体的に。

飛川 やだよ、あんな暗いの。それに、前から見てくれてる人たちが劇団フライヤーズに求めてるのはファンタジーだろ？

深山 周りのことなんて気にしなくていいんですよ。今の座長は飛川さんでしょ？飛川さんの劇団なんですよ？

飛川 俺の？

深山 そう！これからのフライヤーズは飛川さん次第でどんな風にも変われるんですよ。

飛川 そうか……そうだよな。

深山 そうですよ！

飛川 その結果がこれってことだよな。

深山 えっ

飛川 団員も多くて賑やかで、脚本も面白いから固定のファンだって増えてきてた。そんな劇団が今はこうだ。

深山 それは……今はまだ転換期で、なかなか落ち着かなかったし当然ですよ！やっと久々の本公演ができるんですから……

飛川 その本公演もこんな状況だろ。

深山 ……

飛川 ……俺ってつくづくだめ人間だな。

深山 またそんなこと……

飛川 あいつみたいに面白い本は書けないし、あいつみたいに人をまとめることもできない。フライヤーズは終わってたんだよ。あいつがいなくなった時点で。……俺じゃダメなんだよ。

深山 ……

飛川 ……もう、飛んじゃおうか

つばめ はい。一緒に飛んじゃいましょう！

　喫茶店。元の３人に戻っている。

隼人 うーん。

つばめ わかんないなあ。なにを悩むことがあるんです？ていうかそもそも、先輩はなんでこんな劇団入ったんですか？

隼人 こんな劇団って

つばめ だって公演、積極的にやってるわけでもないし、団内環境は最悪だし、オリジナル本かける作家だって先輩入った時にはもういなかったわけでしょ？

隼人 正式な団員は飛川さんと深山さんだけだったからね。あとはヘルプの人？音響さんとか。

つばめ 前の公演何かで見たとかですか？

隼人 いやーそうでもなくて。まあ強いて言うなら

つばめ 強いて言うなら？

隼人 稽古場が学校から近かったからかな？

つばめ ええ！？そんな理由！？

隼人 最初はね。で、見学にいって、稽古体験させてもらって。そん時すごく楽しかったの。みんな一生懸命で、年離れてる俺にも優しくてフレンドリーで。

つばめ はいはい、そうやって騙されたわけですね。で、私もそれに巻き込まれた、と。

隼人 つばめちゃん

　つばめ、立ち上がる

隼人 ちょっと。どこ行くの。

つばめ トイレです。

　つばめ、スタスタとトイレへ

隼人 ……まあでもつばめちゃんまだ飛川さんと付き合い浅すぎるし……信じろって方が無理か。難しいよなあ、人間って……

亘 生きてる……人間だからね。

隼人 あれ？そういえばあの本……！

　隼人、スマホを取り出して何かを検索し始める。

　スマホに夢中の隼人。

　一人取り残された亘、手持ち無沙汰になって、ふと目の前を見るとつばめが残していったフラッペーノが。

店員の声 「限定フラッペーノ、完売いたしました！ありがとうございましたー」

亘 えっ……

そわそわする亘。

つばめが帰ってこないか確認しつつ、隼人に気づかれないようそっとフラッペーノに手をかける。

ストローに口をつけようとして一瞬躊躇する。

亘 隼人くん、ごめんな。

　ストローをしっかり拭いてからフラッペーノを飲み、美味しくて悶絶。

亘 んーっ！めっちゃプリン……！！

隼人 あっ！！！

　亘、びっくりしてフラッペーノを落としてしまう

　あたふたするがどうしようもできない亘。

隼人 あった。これだ……

　そこにつばめが戻ってくる。

隼人 つばめちゃん、台本変わったら戻ってくれるんだよね？

つばめ いや、だからそれは例えであって……

隼人 まあいいや、とりあえずホールもどろう。

つばめ ちょっとなんですかいきなり……ってうわ！先輩！！

隼人 えっなに！？

つばめ フラッペーノ！こぼしたんですか！？

隼人 ん？あれ？なんで？

つばめ こっちが聞きたいですよ！

隼人 ごめん、また奢ってあげるから。ちょっと一緒にきて

つばめ 奢るったってもうどこも完売……

隼人 ほら、リハ時間終わっちゃうから。早く。

つばめ やだ！私戻りたくないんですってば！

　強引につばめを連れていく隼人。

　二人を見送ってから、亘、

亘 すまない。若人……！

　追いかけて去る。

　ホール。重い空気の中、深山が口を開く

深山 飛ぶって、演劇祭を、ですか？

飛川 別に俺だけでもいいよ。そうだそれがいいよ。劇団はお前が続けろよ。俺が辞めれば戻ってくるだろ。つばめも。隼人も。

深山 隼人くんは辞めるなんて

飛川 でもいずれそうなるだろ。座長のせいで後輩も辞めて、空気もこんなで……今回、俺は役者じゃない。お前らがいれば演劇祭だってなんとかなるだろ。

深山 ……それじゃ意味ないだろ。

飛川 え？

深山 書いたお前がいてくれなきゃ、作品は完成しないじゃねえか！！

飛川 深山

深山 ５年前、飛川さんが言った言葉でしょ。もう忘れたんですか？

飛川 でも結局、あいつは当日いなかったじゃねえか

深山 状況が違うでしょ！それはツグミさんに失礼です！

飛川 ……

深山 ツグミさんは……亘さんは、来たかったんですよ。本当は。最後の最後まで諦めてなんてなかった。でも、現実は甘くないってことも自分自身でよくわかってたから、せめてみんなには迷惑かけまいって……

飛川 深山。もういい。ごめん。俺が悪かった。

　そこに駆け込んでくる隼人とつばめ。

深山 諦めて投げ出して自分だけ逃げようとしてるあんたと……

　少し遅れて入ってくる亘

深山 悔しいのを堪えてリタイアする覚悟を決めた亘さんを一緒にするな！！！

飛川 （戻ってきた二人に気付き）……お前ら……

隼人 あ……すいません。あの。えっと。

深山 あ、ご、ごめん。なんでもないの。つばめちゃん、ごめんね。さっきは。

つばめ ……別に。深山さんが謝ることじゃないですけど……

深山 隼人くん、説得してくれたの？

隼人 そのこと……なんですけど、提案っていうか、考えたことがあって。

つばめ ちょっと先輩。私は……

隼人 『生きる人間として』

飛川 え？

隼人 練習で一度だけ使った本ですよ。ラスト、「生きてる人間だから」って繰り返すやつ。

飛川 あ、あぁ。あったかなそんなの。

隼人 ネットで拾ってきた本だって飛川さんが言ってたから探したら確かに出てきました。無料脚本公開サイトで。

 これ、この本。演劇祭で使いませんか？

飛川 ……え？

つばめ 先輩、なに言って……

隼人 これ、男１、女２の３人芝居です。ちょうど良くないですか？一生懸命、新作かいてくれた飛川さんには申し訳ないですけど、この本なら俺たち、納得して舞台に立てるって……

つばめ 待ってくださいよ。あと１週間ですよ。どうやって仕上げるんですか。

隼人 それでも、このまま今の本をやるよりちゃんと仕上がるって俺は思うんですけど……

飛川 隼人。お前が今回の本、よっぽど嫌いなんだってのはよくわかった。

隼人 別にそう言うつもりじゃ

飛川 でもな、つばめの言う通り、１週間でこれだけのセリフを覚えて作り直すなんて無理がある……

隼人 生きてる人間だから！

飛川 ！

隼人 計算通りにいかないことがある。生きてる人間だから、前に進めなくなることもある。それでも僕らは生きてる……

深山 生きてる人間だから、生きてる人間だから、後ろに戻ることもできないから。とにかく生きる。足踏みしてでも生きる。きっといつか一歩踏み出せる日がやってくるから。生きてる人間だから。生きてく人間だから。

隼人 俺、２年前にやった練習台本だけど、まだ覚えてます。深山さんも……ですよね。

　深山、頷く

隼人 もう一人の女性はそんなにセリフ多くないし、つばめちゃんはセリフ覚え早いし、いけると思うんです。

つばめ でも、フライヤーズは本公演ではオリジナルの台本しかやらないって……

隼人 オリジナル、ですよね？

つばめ え？

隼人 これ、飛川さんが書いた本なんじゃないですか？

飛川 ……知らん。それはネットに……

隼人 ネットにあげたの、飛川さんなんでしょ？作者の「モッズ・フライヤー」って、飛川さんのことですよね？

飛川 誰がそんな……深山、お前か？

深山 私はなにも言ってません！

隼人 深山さんに聞くってことはやっぱりそうなんですよね？

飛川 違う！変なデマ流したんじゃないかって……

隼人 デマじゃないでしょ！まず名前、前の座付脚本家の名前「ツグミ・フライヤー」さんですよね？二人で「フライヤーズ」だったんでしょ？

飛川 偶然だろ。

隼人 それに。練習の時には気づきませんでしたけど今ならなんとなくわかります。この本からは飛川さんが溢れ出してます！

　突然、かかりだす場違いな洋楽

飛川 ……音響。

音響 え。あ、すいません。あれ？

飛川 アースの曲なんてリストにないだろ！？

音響 そうなんですけど……

　慌てて、曲を止める音響

　その隣にはいつの間にか亘が。

飛川 とにかく、台本は変えない。誰が書いたかもわからない台本で本公演なんて……

　またかかりだす同じ曲

飛川 おい！！

音響 いや、私、ほんとになにもしてないんです……

飛川 はぁ？

隼人 アース……あ！

つばめ え？

隼人 これ、この曲、ゲッタウェイって曲だよ、アースウインドアンドファイアの。

亘 あ、そう、正解。

　亘の声が音響が持っていたマイクに入る

飛川 え？今誰か喋ったか？

亘 あれ？

　亘、マイクに向かって

亘 飛川くん。聞こえますか？

飛川 え…？

亘 聞こえてる！…えー……飛川くん。僕は今、あなたの脳内に直接語りかけています。

飛川 な……は？なに？みんな聞こえてないの？

一同 ……

つばめ いや、聞こえてますけど。

亘 えっ、聞こえてんの？

隼人 めっちゃ聞こえます。

飛川 聞こえてんじゃねぇか！

亘 わ、すごい。マイク通せば聞こえるんだ。なんだ。こうすればよかったのか。

　音響からマイクをとる亘

音響 あ、わ、ま、マイク……マイク浮いてる！！

飛川 ええ！？

　みんなからはマイクが浮いているように見えるらしい

飛川 なんだそれ！？どういう手品！？

音響 いや、私じゃないですって。

飛川 はああ？ていうかお前誰だよ！さっきから喋ってるやつ！

亘 僕が……わかりませんか？飛川くん。いや、モッズ。

飛川 ……お前……

深山 亘……さん？

つばめ 亘さんって誰ですか？

隼人 いや、俺も知らない。

深山 フライヤーズの元座長。座付き作家で、ペンネームは鶫（ツグミ）・フライヤー。

飛川 いやありえないよ。だって、あいつは５年前に……

亘 モッズ。

飛川 ５年前に死んだじゃないか！

つばめ えっ……

隼人 し、死んだって……

亘 ねえ、僕以外に君のことをモッズなんて呼ぶ奴がいるかい？

飛川 いない。いないよ。でも俺がその名前で呼ばれてたのを知ってるやつなんていくらでも

亘　　　　　　『げっちゅう☆２人のラブラブ日記』

飛川 ……！！

亘　　　　　　『旅立ちの青い青春ロード』『ハワイアンな誘拐便り』

飛川 や、やめろ！！

亘　　　　　　『キャンディみたいな夕暮れをあなたに』……

飛川 やめてくれええええ！！……わかった。認める。認めるから……

隼人 なんなんです？今の？

深山 私も知らない。

亘 学生時代のモッズ先生による胸キュン脚本集でした。

つばめ うわあ……

隼人 いや、でも『ハワイアンな誘拐便り』はちょっと気になる……

亘 久しぶり。モッズ。深山ちゃんも。

深山 本当に、亘さんなんですか？

亘 なんだよ、君まで疑うの？

深山 だって、こんなこと……

亘 まあそうだよね。僕だって生きてたら同じ反応するだろうな。でもせっかくこうして話せるんだからさ、そろそろ信じてよ。ね。

飛川 ……なにしにきたんだよ。

亘 なにしにって？

飛川 俺を助けるために化けて出たなんて言うんじゃねぇだろうな……

亘 ええ？

飛川 なんだよ今更。今更出てこられたって遅いんだよ。もう何人やめたと思ってんだよ。何回挫折してきたと思ってんだよ。いらねえよ！幽霊の助けなんて！うちの劇団に本当に必要なのは鶫の脚本で、亘っていうリーダーなんだよ！！……俺じゃダメなんだよ……。

亘 ……。

飛川 ……化けて出るくらいだったら、最初からクソみたいな病気になんて負けてんじゃねえよ……

亘 モッズ。

　亘、マイクを置いて舞台の方へ。

　落ちている台本を拾い上げ、飛川を叩く。

飛川 いった！！

深山 亘さん！？

亘 勘違いするなよ。

飛川 はあ？

亘 ずっと見てきたよ、君とフライヤーズのこと。確かに君は頑張ってた。ずっと頑張ってた。でもさ、この５年、君が君らしく振る舞っていたことがある？妙に周りに気を遣ったり、気になるのに見ないふりをしたり、あえて突き放してみたり……君はそんなやつじゃないだろ？

飛川 じゃあどんなやつだって言うんだよ。

隼人 え。飛川さん、なんか聞こえるんですか？え？聞こえる？

つばめ いや、全然。て言うかこれ何？ドッキリですか？

深山 しっ。ちょっとだけ。二人で話させてあげて。

亘 脚本だってそう。なんで僕の模倣ばっかりしてるんだよ。

飛川 模倣なんて

亘 してるよ。僕がいなくなってからずーっと。君こういうの苦手だったろ？

飛川 ただ、ちょっと書いてみたくなっただけだよ。

亘 あんなに何本もボツにしながら？いつもいつも頭を抱えながら？

飛川 いいだろ！産みの苦しみを楽しんだって！おかげでちゃんと一本。書けたじゃないか！

亘 かけてないよ！なんだよこれ！ひどいよ！

飛川 おまえまでいうか！

亘 君が得意なのはもっと身近な日常を描いたような、まっすぐな言葉を紡ぐことだろ？それしか書けないんだよ。

だって、君はばかだから。

飛川 ば、ばかだって！？

亘 そう、君はバカなんだよ。空気読めない、感情がすぐ表に出る、計算なんて到底無理。だからこそ、久しぶりに新しい子が入ってくれた時だけは、ようやく肩の荷が降りていつもの君に戻れそうだったじゃないか。

飛川 別にそんなんじゃ……

亘 それが……今度はちょっと気の強そうな子が入ってきたからって慌てて強いフリなんてはじめてさ。結局また同じ失敗しそうになってるんだもん。せっかくうまく行きそうだったのに。みてられないよ。

飛川 ……。

亘 ねえ、なにをずっと絶望してるんだよ。希望まみれだよ、君の周りは。ブレずに君についてきてくれる深山ちゃんがいて、君の困ったところをきちんと叱ってくれるつばめちゃんがいて、君以上に君のことをよくみてくれている隼人くんがいて。

飛川 でも……やっぱりダメだよ、俺は。ダメなんだよ……フライヤーズにはお前がいないと……

亘 死んだんだよ！ツグミも、亘も！いつまでいなくなった人間にしがみついてんだよ！ 生きてる人間だろ！お前は！！

飛川 ！

亘 前に進めなくなっても、また一歩踏み出せる日が来るんだろ？なら、まずは地に足つけて踏ん張れよ！足踏みでも、地団駄でもいいんだよ！いつまでもふわふわしてんじゃねーよ！モッズ・フライヤー！

飛川 ……亘。俺、続けてもいいのかな。

亘 そんなもの、僕にわかるわけないでしょ。

飛川 ……。

亘 まずは君がどうしたいか、じゃないの？

飛川 俺は……俺はさ。

亘 ああ、ストップ。続きは僕にじゃなくて、ほら。言うべき人たちに、言わないと。

飛川 そうだな。

亘 もういい？僕、そろそろ上がりたいんだけど。

飛川 ……おう。

　亘、音響ブースの方に歩いていく

飛川 亘、５年も……すまんかったな。

亘 そこはありがとうの方が嬉しいな。

飛川 ああ……うん。ありがとな。

亘 いいえ。あー！なんか辛気臭いよね、ＢＧＭでもかけていくよ。こう言う時はやっぱり……

　亘、再生ボタンを押すとアースウインドアンドファイアの「sing a song」が流れる。

　みんなびっくり。

　音響が一番びっくりして止めようとする

飛川 あー！いい。止めなくていい……よ。お前好きだよなあ、アース。

亘 この人たちの曲聴きながら書くとさ、嫌でも明るい話ができるんだ。

飛川 なるほど。

亘 じゃあ

飛川 ……おう。

亘 あ、そうだ！

飛川 え？

　マイクをとり

亘 つばめちゃん！

つばめ は、はい？

亘 ５年前の心残り、晴らせたよ！ありがとう！

つばめ え？え？…

亘 こぼしちゃってごめんね！

つばめ あああああ！！

　手に持ったままになっていたカップに気づき、マイクのある方を指差すつばめ

亘 頑張れよ。劇団フライヤーズ。

　マイクを置き、朗らかに退場していく亘。

　会場のドアが閉まる。

深山 行っちゃったんですかね？亘さん。

飛川 そうだな。

深山 きちんと話、できましたか？

飛川 うん……いや、まだだな。

　飛川、団員たちの方に向き直る。

飛川 お前ら……いや、みんな！俺さ。俺、やっぱ演劇したいわ！台本変えるでもなんでもいいよ。今からでも、あと１週間、一緒に頑張って、楽しんでみてくれませんか……！！

　頭を下げる飛川。

　顔を見合わせる深山と隼人

隼人 だから、そうしましょうって言ってるじゃないですか！

深山 エンジンかかるの遅すぎ！「モッズ」さん。

飛川 隼人、深山……つばめ、ごめんな。俺、バカだから。どうしていいかわかんなかったんだ。

つばめ そんなんいきなり言われても。意味わかんないんですけど。

飛川 だよな。

つばめ 私、納得しませんから。今日のこととか、今までのこととか。ちゃんと説明してもらわないと。

飛川 もちろん。ちゃんと話す。

　いつになく素直な飛川に気押されるつばめ

つばめ そ、それだけじゃ許しませんから。

飛川 そうだな。どうしたらいい？なんでも言ってくれ。

つばめ なん……っ。じゃ、じゃあ……くれます？

飛川 え？

つばめ 限定フラッペーノ、奢ってくれます？

飛川 おう……！おういいよ！何杯でも！

つばめ 一番大きいサイズですよ！？（カップを見せる）

飛川 でっか……も、もちろん！

つばめ 言いましたね。じゃいきますよ。

飛川 え？今？本番終わってからじゃダメか？

つばめ だめに決まってるでしょ！こうしてる間にも続々と売り切れてるんですから！まだありそうなのは隣町の店舗ですね！

飛川 隣町！？

つばめ ほら、早く！先輩たちも！

　つばめ、飛川を連れていく

隼人 ……本番間に合うのかなぁこれ。

深山 さあ……

苦笑いしながら二人についていく隼人と深山。

　アースの曲は余韻を残しながらフェードアウトしていく。

テーマ曲にのせてカーテンコール

『とばないで！フライヤーズ』 了